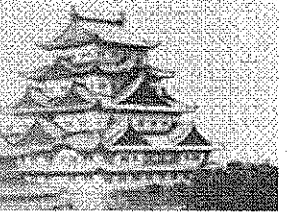


名古屋城天守閣の整備



アンケートに答える前に見てね！



木造復元？



名古屋のシンボル「名古屋城」。
「名古屋城天守閣の整備」について
あなたのお考えを教えてください。

耐震改修？



役所 天守閣と本丸御殿
(旧国宝第一号)



1610年に徳川家康の命によって築城に着手し、
1612年に天守閣が竣工されました。
1930年に天守閣・本丸御殿が城郭として、国宝
第1号(旧国宝)に指定されました。

戦災 戦災による焼失

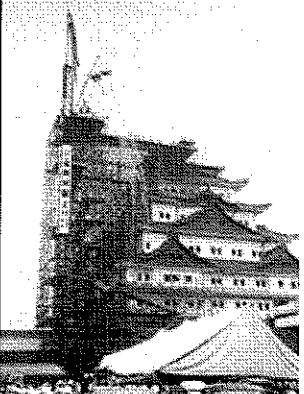


昭和20年5月14日、空襲により大天守閣・小天
守閣など多くの建物が焼失しました。

写真：東海軍管区司令部報道部 岩田一郎氏 撮影「名古屋空襲を記録する会」蔵

名古屋城のあゆみ

戦後 天守閣の再建



昭和32年に工事に
着手し、昭和34年に
竣工しました。
総工費6億円のうち、
約2億円が寄附で
賄われました。

再建から半世紀が経過し、
さまざまな課題が発生しています。
天守閣整備についての

- ・課題
- ・民間業者からの提案

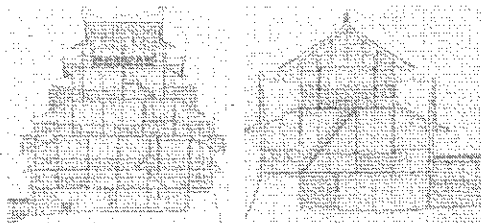
は、中面をご覧ください。



「貴重な記録資料が残っています」

昭和実測図

昭和7年から27年にかけて天守閣をはじめ、
国宝建造物24棟の実測図面を作成
大天守閣：56枚 / 小天守閣：15枚



昭和実測図が
多数残っているため、
史実に忠実な復元が可能と
言われています。



天守閣整備に 対する課題

再建から56年が経過し、 課題が発生しています。

- ① コンクリートの劣化や設備の老朽化、石垣の変形などが進行しています
- ② 耐震性能が現行基準に合わず、耐震改修したとしても概ね40年の寿命とされています
⇒ 耐震診断の評価Ⅱ-2(本市耐震基準による)震度6強程度の地震に対して、倒壊または崩壊する可能性が高い

こうした課題を踏まえると、

いずれかの時期には天守閣を建て替える必要があります。

① 「早期の木造復元」か「耐震改修後に木造復元」か？

名古屋市では、平成26年度に『可能な限り早期に木造復元した場合』と、『耐震改修した後に木造復元した場合』とに分けて、課題等について比較検討を行いました。その結果、「一般木材の流通量」はそれほど変わりませんが、「太い木材」の入手については、40年後には極めて困難になるという結果になりました。また、「社会情勢」につきましても、大工や技術者の確保など、今後より一層厳しくなると予想がなされています。

② 2020年7月完成を目指した検討

天守閣については、「木造復元した方が良い」、「耐震改修した方が良い」などの意見がありますが、名古屋市においては、市長の「世界にアピールできる千載一遇のチャンスである東京オリンピック・パラリンピックにあわせ、2020年7月までに天守閣を木造復元する」という方針が示されたことから、4年余りの中での迅速な整備が求められています。

③ 民間業者から技術提案を募集

木造復元の際には、仕様の前提となる条件の確定が困難な工事であることなどから、民間ノウハウを活用する「技術提案・交渉方式」※を採用し、工期・工程・概算事業費などを明らかにするため、2020年7月までに天守閣を木造復元する提案を募集しました。

その結果、「株式会社 竹中工務店」の提案を「優秀提案」に選定しました。(右面参照)

今後、当該業者と価格や設計、施工計画、施工方法を交渉した上で、契約の相手方に決定することになります。

※「技術提案・交渉方式」

技術提案を募集し、最も優れた提案を行った者を優先交渉権者として、その者と価格や施工方法等を交渉し、契約の相手方を決定する方式

メリット	<ul style="list-style-type: none">・ これまでにない厳しい条件下で、高度な技術が必要とされる工事の施工が可能である。・ 施工業者がノウハウを活かして設計を行うことから、効率的な施工が可能となり、工期の短縮に繋がる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・ 提案する目的物の品質・性能と価格等のバランスの判断が困難になり、発注者にとって過剰な品質で高価格な提案となる恐れがある。・ 施工業者が実施する設計に対し、的確な判断や指示を行う能力が発注者に必要となる。

民間業者からの 技術提案

(平成28年4月時点の内容です)

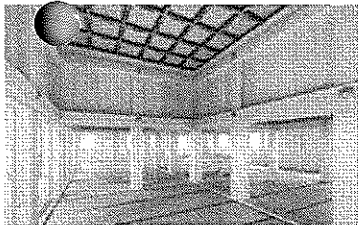
POINT

- ① 史実に忠実な木造天守閣を復元
- ② 平成32年7月末に天守閣を復元
- ③ 実現性のある総事業費を提案
(建設費・設計費)

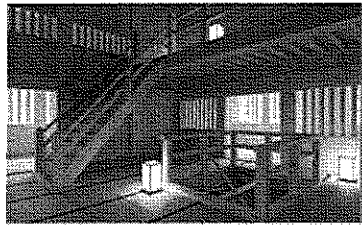
提案者	株式会社 竹中工務店
バリアフリー化	小型エレベーター設置を検討 (地階～1階、1階～4階) (車いす利用可:4人乗り)
復元過程の公開方法	工事現場内見学施設(5階建て)
木材利用	原則、国産材 一部外材を使用
総事業費(税込み) (建設費・設計費)	石垣の整備手法等により 約474～約505億円
天守閣竣工時期	平成32(2020)年7月



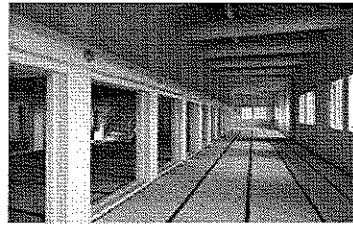
東南側から本丸御殿の屋根越しの外観



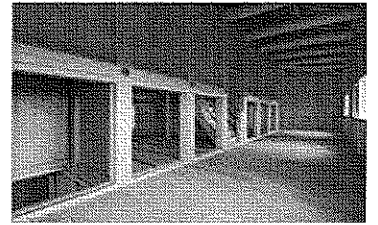
大天守 5層二之間



大天守 3層階段

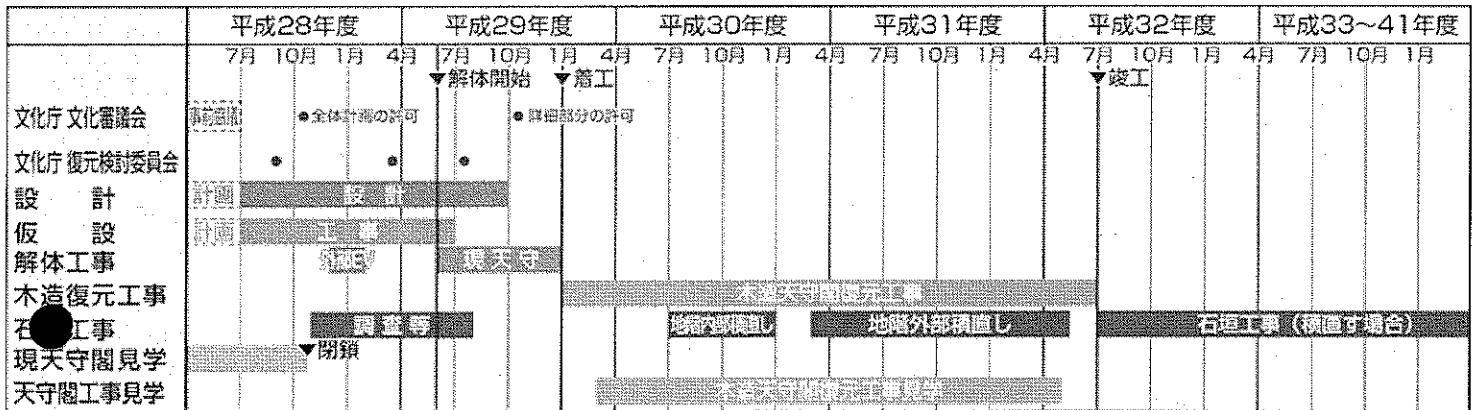


大天守 2層入側



小天守 1層入側

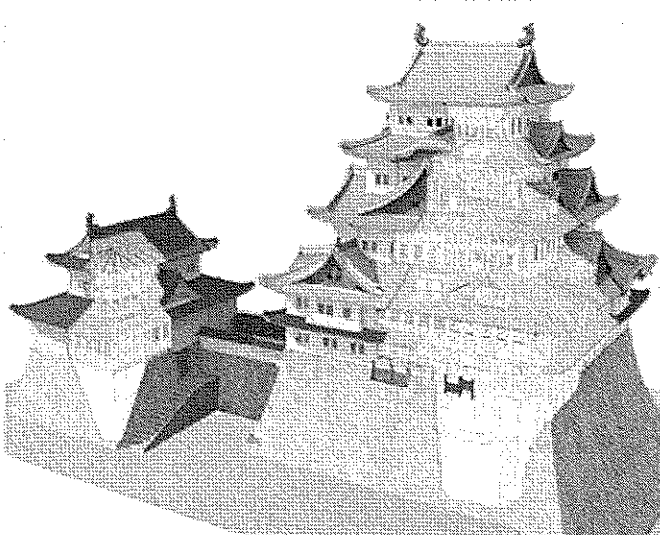
■ 工程計画



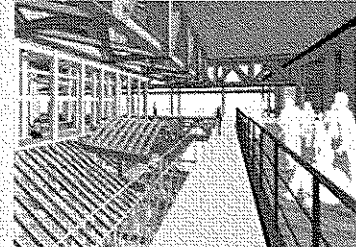
※本計画は、平成28年4月時点のものです。今後の交渉により計画が変更となる場合があります。

木造天守閣復元工事を目の当たりに見学できます

工事中の天守閣を囲う「素屋根」には、見学フロア、展望デッキ、体験コーナー等を設えます。



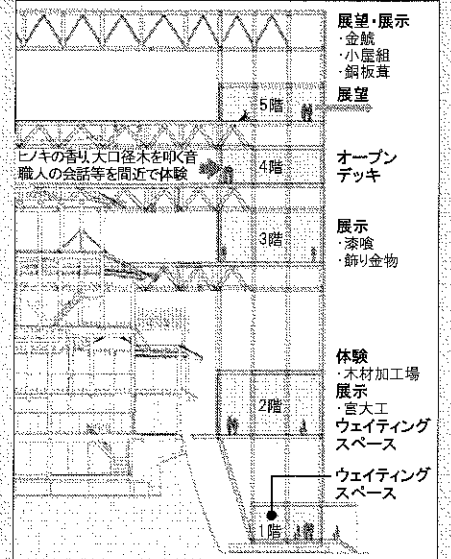
昭和実測図に基づくモデル



4階オープンデッキ



3階展示室



天守閣木造復元にかかるお金等について

優秀提案に示された概算事業費(建設費・設計費)505億円を基に収支計画を試算しました。運営管理費も含めた総事業費については、市債を発行するなど財源を確保し、全額、入場料収入で返済します。

今回の収支計画を試算するにあたり、入場料については、市民450円、市民以外1,000円と設定しました。

市民については、「名古屋城は長年にわたり市民に支えられてきた施設ですが、来場者の中で市民の占める割合が少なく市民に配慮する必要がある」、「戦略的なシティプロモーションの一環として、市民に名古屋城の魅力を情報発信する役割を担ってもらおう」ことなどから特別料金を設定しています。なお、入場料の変更には、条例の改正が必要です。

■収支計画 (期間:平成28年度～平成81年度)

名古屋城入場料(竣工後):市民450円 市民以外1,000円 / 現行500円

※詳しくは「2万人アンケート 説明資料」(天守閣整備にかかるお金等)をご覧ください。

収入			支出		
事項	金額(百万円)	積算	事項	金額(百万円)	積算
入場料収入	97,928	名古屋城全体の入場料収入のうち、75%を天守閣に充当	建設費(利子含む)	60,567	元金: 50,500百万円 利子: 10,067百万円
		H32(8カ月) 1,791百万円(入場者331万人)	運営管理費	27,645	H26年度の実績に基づき算出 H28～31年度(天守閣閉鎖中) 各年度平均約114百万円 H32～81年度 各年度平均約544百万円
		H33 2,413百万円(入場者446万人)	集客促進費	200	木造復元にかかる周年事業
		H34 2,170百万円(入場者401万人)	修繕費	3,086	平成81年度までの必要額
		H35以降 1,948百万円(入場者360万人)	基金積立	6,430	支出を上回る収入について 基金積立
計	97,928		計	97,928	

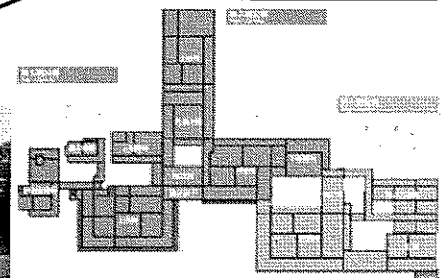
・収支計画は、起債の償還期間終了までの平成28～81年度で作成しています。

・起債の発行年率や年次割等は、直近の実績などを参考に一定の条件で算出しています。(年率0.665%、40年償還、20年債1回借換えなど)

本丸御殿は、現在国宝である京都・二条城の二の丸御殿に並ぶ武家風書院造の最高傑作といわれています。その歴史的意義を踏まえ、焼失前と同等の文化的価値を有するとともに広く市民が活用でき、世界的な市民の財産となるように、工期を3期10年で本丸御殿の復元を進めています。



6/1(水)【対面所・下御膳所】
公開開始! ぜひ、お越しください



問合せ：名古屋市役所 観光文化交流局 ナゴヤ魅力向上室

電話：(052)972-2226 / FAX：(052)972-4199

問合せ時間：月曜日から金曜日の午前8時45分から午後5時30分まで(祝日を除く)